

平成 23 年 3 月 11 日(金)

インターンシップ地域研修 最終報告

第 5 期インターン生： しお

①受入施設の紹介

そのⅠ 星野リゾート・アルツ磐梯スキー場

場所：福島県耶麻郡磐梯町

スキー場内にはレストランが 3 つあり、私はその中で磐梯食堂というリゾートセンターの 1,2 階にあるレストランの 2 階に配属され、5 日間研修を行った。

<業務内容>下膳、食器の洗浄、食器の運搬、料理の盛り付け

そのⅡ 土湯温泉 山水荘



場所：福島市土湯温泉町

概要：地上 8 階,地下 1 階 客室 71 室(全室バス・トイレ付) 収容人員 430 名

温泉：<露天>3F 太子の湯 6F 瀧の湯,淵の湯にある露天桶風呂

<内風呂>1F つれづれの湯(男),たまゆらの湯(女) 6F 瀧の湯,淵の湯

<貸切(家族)風呂>3F 石の湯 4F 樽の湯,かわせみの湯 5F おしどりの湯 8F 星天の湯

料理：福島県産エゴマ豚または川俣シャモを使ったうどんすき鍋、パンを目の前で焼いてからいただく朝食バイキング

その他施設：アロマエステ、温水プール、サウナ

②研修の目的

私は生まれも育ちも福島市の「福島っ子」で福島市のことが大好きです。しかし大学に入学して仙台で暮らすようになってから、県外から見た福島市の魅力を時々感じるようになり、もっと福島市の「いいところ」を知りたいと思うようになりました。そこで私が興味を持っている農業分野の視点から福島市の魅力を再発見し、もっと福島を PR できるものを見つけていきたいと考えています。

また、大学ではこれから地域へ出向いて聞き取り調査をする機会が増えてきます。そのため今回の地域研修で農家などへ直接取材を行うことで、聞き取りをすることに対して少しでも慣れておこうと思い、今回この地域密着型インターンシップ研修に参加することとしました。

③研修・作業内容

<旅館業務>食器の洗浄,片付け、配膳、下膳、宴会場のセッティング、料理の盛り付け
<その他>星野リゾート・アルツ磐梯スキー場での研修、郷土愛発掘隊(土湯源泉ツアー)、8の字プロジェクトへ参加、福島市内の農家へ取材(2件)、「ふくしままちなか感じる旅」への参加

④課題内容

○市内にある農家の収穫カレンダー作成、取材
そのⅠ 大友農園



<生産品種>福島盆地の山沿いに立地する荒川扇状地にあり、さくらんぼ・桃・りんご・米の4つの農産物を生産している。さくらんぼは佐藤錦をメインに 6,7 品種,桃はあかつきと川中島その他 12,13 品種,りんごはふじ他 8 品種,米はコシヒカリともち米の 2 品種の約 32 品種を栽培している。多くの品種を生産することで出荷の時期をずらし、収入の入る時期を伸ばす。
<販路>さくらんぼと桃は JA(桃の一部は東京に出荷)りんごと米は個人販売である。

<こだわり>米ぬかをベースとした肥料を使用し、収穫の際には色などの見た目ではなく、実際に食味をして食べごろの少し前になると行う。

大友さんは「収穫だけでなく草刈りや摘果なども含めて農業作業。今商品は安いことを求める傾向が強いが、それらの労働費も含まれた価格であることを消費者に理解してほしい。」と言う。

そのⅡ 山岸果樹園

6年前に先代の方が亡くなってから5代目の方が会社を辞めて継いだ土湯フルーツライン沿いにある直売所兼果樹園。30年前から直売所を開いており、お客さんからは「土湯フルーツラインで一番サービスが良い」との評判で、リピーターが多い。

<生産品種>桃はあかつき,川中島をメインに11品種、りんごはサンふじをメインに8品種(緋のあづま,シナノスイートは2,3年前から)栽培している。特にりんごは客の間で「土湯で一番おいしい」との評判。商品はJAに卸さず全て個人販売で、B品については価格を下げて販売している。

<こだわり>作るときには有機肥料や効果の弱い化学肥料を使い、農薬をなるべく使わずにおいしいものを作るように心がけている。また水は裏の山にある湧水を汲み、消毒などに利用している。

○「ふくしまちなか感じる旅」

福島駅から徒歩5分程のところ、吾妻通りの真ん中にそびえ立つ樹齢100~150年も経つ梨の木がある。木は野生で、春には白い花が木全体に咲き、秋に実もなるが一般の梨に比べて固く、糖度も半分位だという。

元々梨の木は東北電力の福島支店の庭園の中にあった。大正時代に酒造業を営んでいた加賀屋総本家の別邸の庭であったものが、昭和42年に福島支店として新築する際に一部が緑地、道路として改良された状態であった。そして平成15年に都市計画として道路拡張工事が行われ、東北電力の旧建物は取り壊されて梨の木は敷地の外へ出てしまい道の障害となるため、当初は切り倒す計画だった。しかし吾妻通り沿いに店を構える4,5人の店主達からの要望によって、梨の木は残すこととなったのである。

残存を訴えた店主の一人、Kさんに話を聞く機会



があった。支店の近くに店を構えているということもあり昔から東北電力の職員との交流関係が存在していた。そのため店主達と東北電力職員の話し合いを行って、梨の木の保存することを決めたという。Kさんは「コンクリートのため吸い上げるための水分が少ない環境の中で、梨の木はきれいな花を咲かせて自然に受粉をして実を実らせて生きてきた。自然の力を感じ、四季の移ろいを感じさせてくれる町にとって大事な存在。だから切られるのはかわいそうだと思った。」と言う。

○土湯温泉町内の足湯と周辺情報のマップ化

町内にある4ヶ所の足湯とその周辺にあるお店へ実際に行き、商品や料金などの情報を収集してきた。



※熊野神社(左)と太子堂(右)

⑤課題達成度

○市内にある農家の取材：85%

収穫カレンダーや、生産のこだわりについてたくさん聞きさせることができた。

○「ふくしままちなか感じる旅」の取材：80%

質問したいことが終わった後から出てきた。

○土湯温泉町内の足湯へ行って詳細を記録：65%

マップにあまり便利そうな情報(所要時間,料金など)を載せることができなかった。

⑥今後のキャリアにどう活かすか？

農家さんへの取材や旅館の方々との会話を通して、以前は人と話すのも言葉を何回もかんでしまうくらいかなり苦手だったのですが、全く知らない他人と話すのに少し慣れてきて、相手から情報を聞き取ることも多少できるようになりました。この経験は今後、大学での現地調査で知識として活かしていこうと思います。

また私は観光産業そのものではなく「地域づくり」に興味があります。そのため今回の研修で「農業」や「観光」という分野についての経験を身につけることで、「地域づくり」についてより広い視野をもてるようにしたいと思います。

そして今後の社会人になるにあたってのひとつの経験としても活かしていきたいです。山水荘や星野リゾートの職員の方々、取材した福島市観光物産協会,農家さんには優しく接してもらいとてもお世話になりました。本当にありがとうございました。